

令和6年度「教育に関する事務の管理及び執行状況」の 点検及び評価報告書(案)の概要

第1部 教育委員会の活動状況

第2部 教育委員会の事務の点検・評価

＜第6次教育振興計画(後期計画)の基本方針毎に整理＞

- I 「いのち」を大切にし、生命をつなぐ教育を推進する
- II 豊かな心と健やかな体を育成する
- III 社会を生き抜く基盤となる確かな学力を育成する
- IV 変化に対応し、社会で自立できる力を育成する
- V 特別なニーズに対応した教育を推進する
- VI 魅力にあふれ、安心・元気な学校づくりを推進する
- VII 郷土に誇りを持ち、地域社会の担い手となる心を育成する
- VIII 活力あるコミュニティ形成に向け、地域の教育力を高める
- IX 地域に活力を与える文化とスポーツを推進する

参考資料

令和7年9月1日 山形県教育局

《スライドにおける凡例》 ● 主な取組み ● 主な統計指標や現状把握等

第1部 教育委員会の活動状況

1 教育委員会会議

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定する、教育に関する事務に関して審議するため、毎月1回定例会を開催。必要な場合は臨時会を開催。

(R6開催状況) ・ 定例会12回、臨時会1回 ・ 議事47件、報告16件

2 教育懇談会

委員が、教育関係者をはじめとする県民から幅広く意見を聴き、教育現場の実情把握に努め、それらを教育施策に反映させることを目的として開催。

(1) 置賜地区 (R6.9.2)

① 長井市立長井小学校訪問 ② 置賜地区各市町教育委員会との懇談

(2) 村山地区 (R6.10.15)

① 上山市立南中学校訪問 ② 村山地区各市町教育委員会との懇談

3 教育委員協議会

当面する検討課題等について、現場での取組状況に係る調査や県公安委員会委員との意見交換を実施。

(1) 現場での取組状況に係る調査

① 寒河江工業高等学校、致道館中学校・高等学校 (R6.7.8)

② 庄内教育事務所、鶴岡市立朝陽第四小学校 (R6.8.29)

(2) 公安委員会委員と教育委員会委員との意見交換会 (R7.2.12)

4 総合教育会議

教育を行うための諸条件の整備、その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策等について、知事と協議、調整を行うために開催。

(R6開催状況) ・ ① 第14回 (R6.10.25) 、② 第15回 (R7.1.24)

・ ①・②とも、次期「山形県教育、学術及び文化の振興に関する施策の大綱」について

第2部 教育委員会の事務の 点検・評価

I 「いのち」を大切に、生命をつなぐ教育を推進する

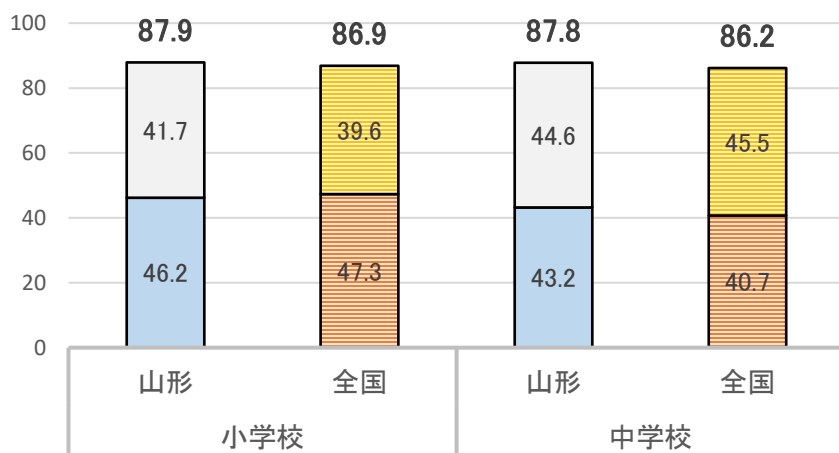
- 地域と連携した成長段階に応じた多様な体験や、先進的・意欲的な取組事例の普及等により、自己肯定感の向上等を図る「いのちの教育」を推進。
- いじめ問題対策連絡協議会の下、いじめ解決支援チームの学校訪問やS S W※の派遣、S C※の学校への配置、全学校でのいじめアンケート（年2回）及び24時間体制の子どもSOSダイヤルや全高等学校でのS N Sによる相談等、相談体制を充実強化。

※ SC(スクールカウンセラー):児童生徒へのカウンセリング困難・ストレスへの対処方法に資する教育プログラムの実施,児童生徒への対応について教職員等への専門的な助言,教育のカウンセリング能力研修等を行う心理の専門家
 ※ SSW(スクールソーシャルワーカー):問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけや関係機関等とのネットワークの構築,連携・調整,学校内におけるチーム体制の構築・支援などの役割を果たす福祉の専門職

- 自分には良いところがあると思う児童生徒の割合、将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合はともに全国と比して同程度が高い傾向。

自分には、よいところがある

■当てはまる ■どちらかと言えば、当てはまる



〈KPI〉

①自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合

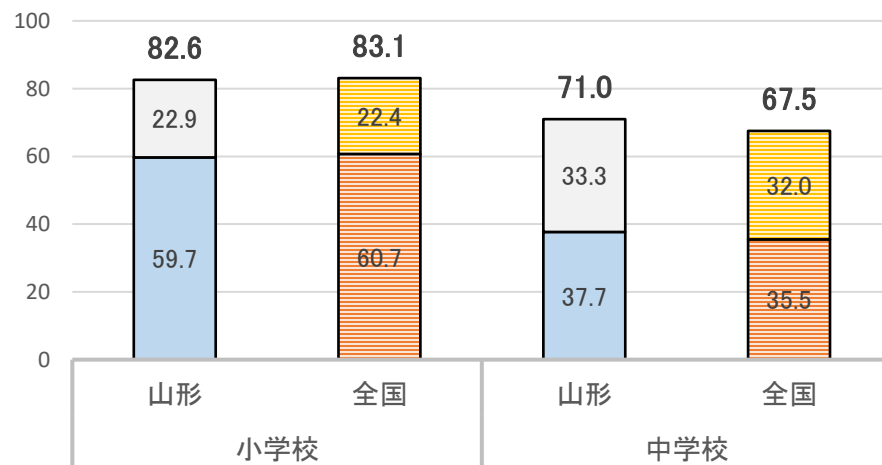
◎達成

(目標値) 小6:86.0% 中3:83.0%

(実績値) 小6:87.9% 中3:87.8% (R7.4)

将来の夢や目標を持っていますか

■当てはまる ■どちらかと言えば、当てはまる



〈KPI〉

②将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合

×未達成

(目標値) 小6:88.0% 中3:75.0%

(実績値) 小6:82.6% 中3:71.0% (R7.4)

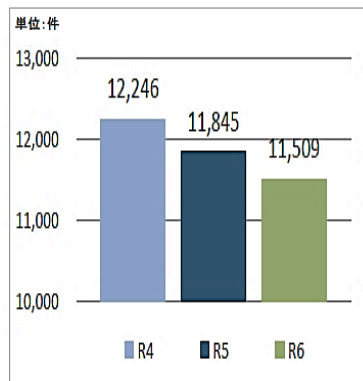
I 「いのち」を大切に、生命をつなぐ教育を推進する

- 令和6年度の県全体のいじめの総認知件数は、前年度比 97.2%と減少している。校種別では、小学校が前年度比 97.8%に減少、中学校も93.5%に減少、高等学校は横ばい、特別支援学校は128.6%に増加。
- いじめが解消しているものの割合は100%に近い状態。

1 いじめの状況

(1)ー1 学校種別いじめの認知件数

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
R4	9,929 件	2,054 件	207 件	56 件	12,246 件
R5	9,388 件	2,196 件	205 件	56 件	11,845 件
R6	9,186 件	2,053 件	198 件	72 件	11,509 件
前年増減	-202 件	-143 件	-7 件	16 件	-336 件
前年比	97.8%	93.5%	96.6%	128.6%	97.2%



〈KPI〉

④いじめの認知件数に占める、いじめが解消しているものの割合
(小・中・高・特支)

○概ね達成

(目標値) 100%に近づく

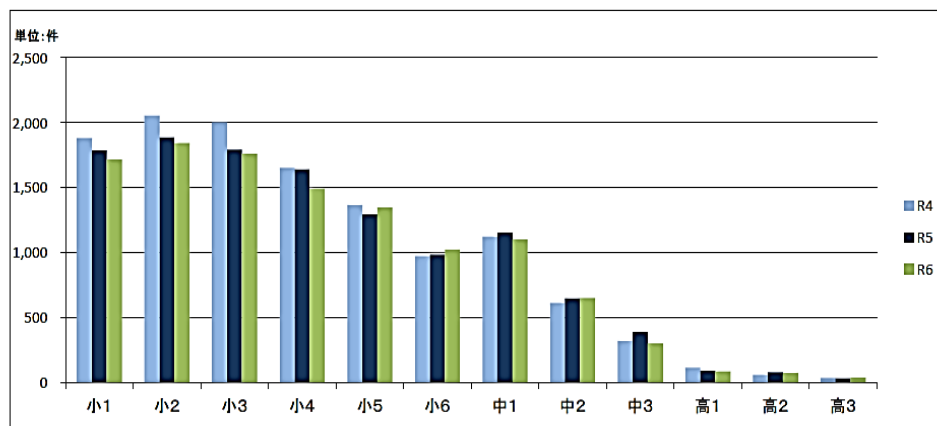
(実績値) 99.3%

(R5認知分 R7.3.31時点)

(1)ー2 過去3年間の学年別認知件数(小中高)

単位:件

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
R4	1,880	2,055	2,003	1,652	1,366	973	1,121	613	320	114	58	35
R5	1,785	1,887	1,792	1,643	1,296	985	1,157	650	389	93	79	33
R6	1,717	1,844	1,761	1,492	1,348	1,024	1,100	652	301	86	75	37



2 いじめの解消状況

(2) 令和5年度認知分の令和6年度末の状況

	いじめが解消した		解消に向けて取組中		その他(転校等)		合計
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
R5	11,764 件	99.3 %	78 件	0.7 %	3 件	0.0 %	11,845 件

※「いじめの解消」の定義

「いじめに係る行為が3か月止んでいること」「被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと」という2つの要件を満たすこと

「いじめの防止等のための基本的な方針」(文部科学大臣決定平成25年10月)

I 「いのち」を大切に、生命をつなぐ教育を推進する

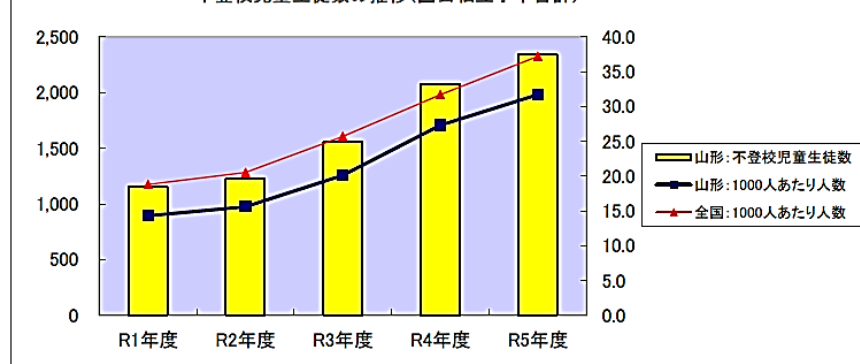
◆ 参考資料 (不登校に関する調査)

- 不登校児童生徒数は全国的に増加している中、本県においても、小中学校では全国平均を下回っているものの1000人当たりの人数は増加傾向。

不登校児童生徒数の推移(国公立小中合計) (単位:人)

年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	増減
山形	不登校児童生徒数	1,153	1,226	1,554	2,073	2,339	266
	1,000人あたり	14.3	15.6	20.1	27.3	31.7	4.4
全国	不登校児童生徒数	181,272	196,127	244,940	299,048	346,482	47,434
	1,000人あたり	18.8	20.5	25.7	31.7	37.2	5.5

不登校児童生徒数の推移(国公立小中合計)

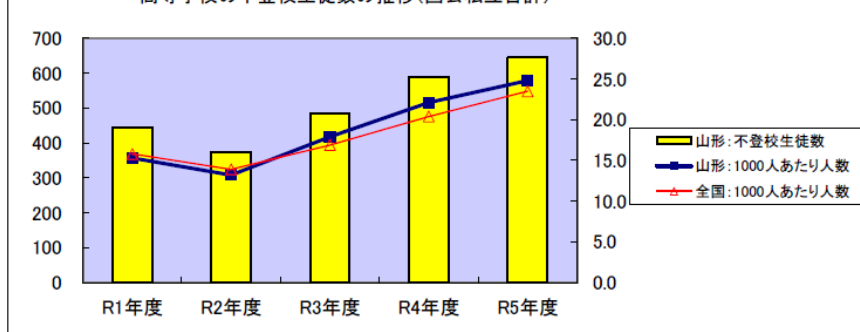


高等学校の不登校生徒数の推移(国公立合計) (単位:人)

年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	増減
山形	不登校生徒数	445	373	486	588	644	56
	1,000人あたり	15.3	13.2	17.9	22.1	24.8	2.7
全国	不登校生徒数	50,100	43,051	50,985	60,575	68,770	8,195
	1,000人あたり	15.8	13.9	16.9	20.4	23.5	3.1

※調査対象: 全日制、定時制高校(通信制高校は含まない)

高等学校の不登校生徒数の推移(国公立合計)



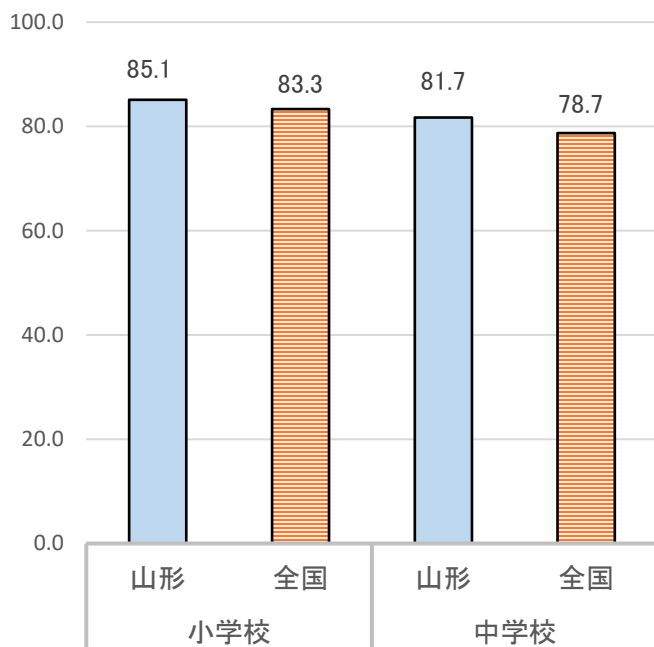
(資料) 「R5. 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」 (文部科学省)

Ⅱ 豊かな心と健やかな体を育成する

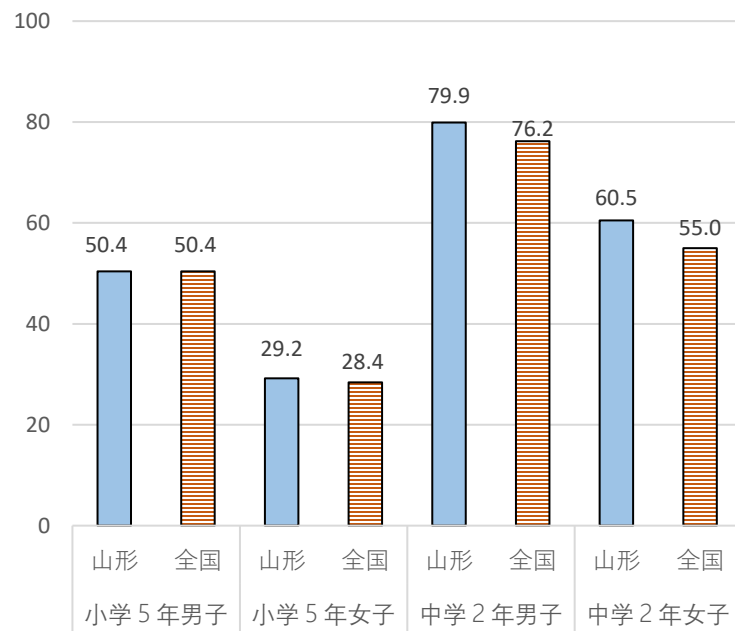
- 家庭教育講座や家庭教育相談電話等による家庭教育の推進及び幼稚園教育課程研究協議会を通した幼児教育の推進。
- 多様な子どもの読書活動推進や山形交響楽団等による学校における文化芸術活動を通した豊かな心の育成。
- 医療機関と連携した講演や栄養教諭が中心となる食育、外部指導者の派遣による保健体育授業の充実等、健やかな体の育成。

- 毎日朝食を摂っている児童生徒の割合は全国と比して高いが、目標値（90%）には達していない。
- 1日60分以上運動する小学5年生の割合は、男女とも全国平均の近傍であるものの、目標値（60%）には達していない。中学生も入れた男女別の調査では小学校女子、中学男女が全国平均を上回っている。

朝食を毎日食べていますか



1日60分以上運動する児童生徒の割合
(男女別)



〈KPI〉

⑥保護者用学習資料を活用した講座・研修会等の実施回数

◎ 達成

(目標値) 150回

(実績値) 381回 (R6)

⑧毎日朝食を摂っている児童生徒の割合

× 未達成

(目標値) 90.0%程度

(実績値) 小6 : 85.1%

中3 : 81.7% (R7.4)

⑨子どものスポーツ実施率

(1日60分以上、小学5年生)

× 未達成

(目標値) 60.0%

(実績値) 39.8% (R6)

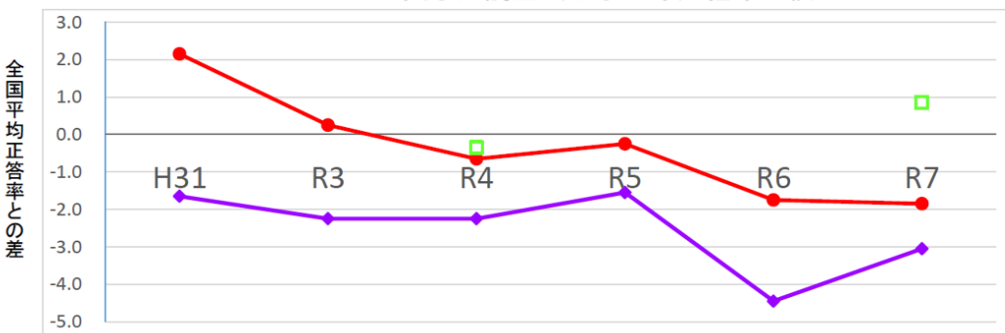
Ⅲ 社会を生き抜く基盤となる確かな学力を育成する

- 学力向上推進会議における有識者の意見を踏まえ、アクションプランの作成や「算数・数学及び英語評価問題」の活用等、社会を生き抜く確かな学力の育成に向けた取組みを展開。
- 少人数学級編制「教育山形『さんさん』プラン」によるきめ細かな指導の充実や、授業改善のリーダーとなる教科担任マイスターの育成研修及び学力上位県への視察等を実施。

【学力調査の結果】

- 小学校は、国語と算数が全国平均を下回り、理科が上回った。中学校は、国語と理科が全国平均と同程度、数学が下回った。
- 昨年度と比較して、小中学校とも国語は全国との差が横ばい、小学校算数は全国との差が縮まり、中学数学は全国との差が広がった。

全国学力調査（小学6年）経年比較

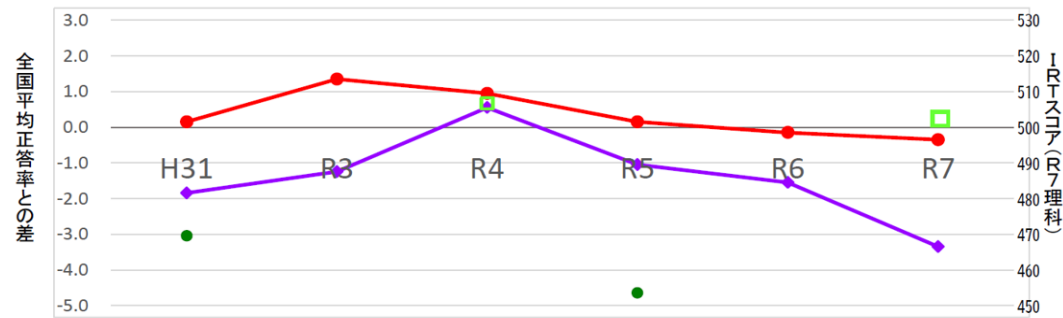


国語
算数
理科

〈KPI〉※ 小学校・中学校の合計
⑩全国学力・学習状況調査で正答率が全国平均以上の科目数 (R7. 4)
× 未達成 (目標値) 全科目
(実績値) 6科目中2科目

	H31	R3	R4	R5	R6	R7
国語	1.7 ~ 2.6	-0.2 ~ 0.7	-1.1 ~ -0.2	-0.7 ~ 0.2	-2.2 ~ -1.3	-2.3 ~ -1.4
算数	-2.1 ~ -1.2	-2.7 ~ -1.8	-2.7 ~ -1.8	-2.0 ~ -1.1	-4.9 ~ -4.0	-3.5 ~ -2.6
理科			-0.8 ~ 0.1			0.4 ~ 1.3

全国学力調査（中学3年）経年比較



国語
数学
理科
英語

※平均正答率について、全国の値は小数第1位まで示されているのに対し、都道府県の値は平成29年度から整数値で示されていることから、グラフの値は、全国との差の範囲の中間値を表示しています。

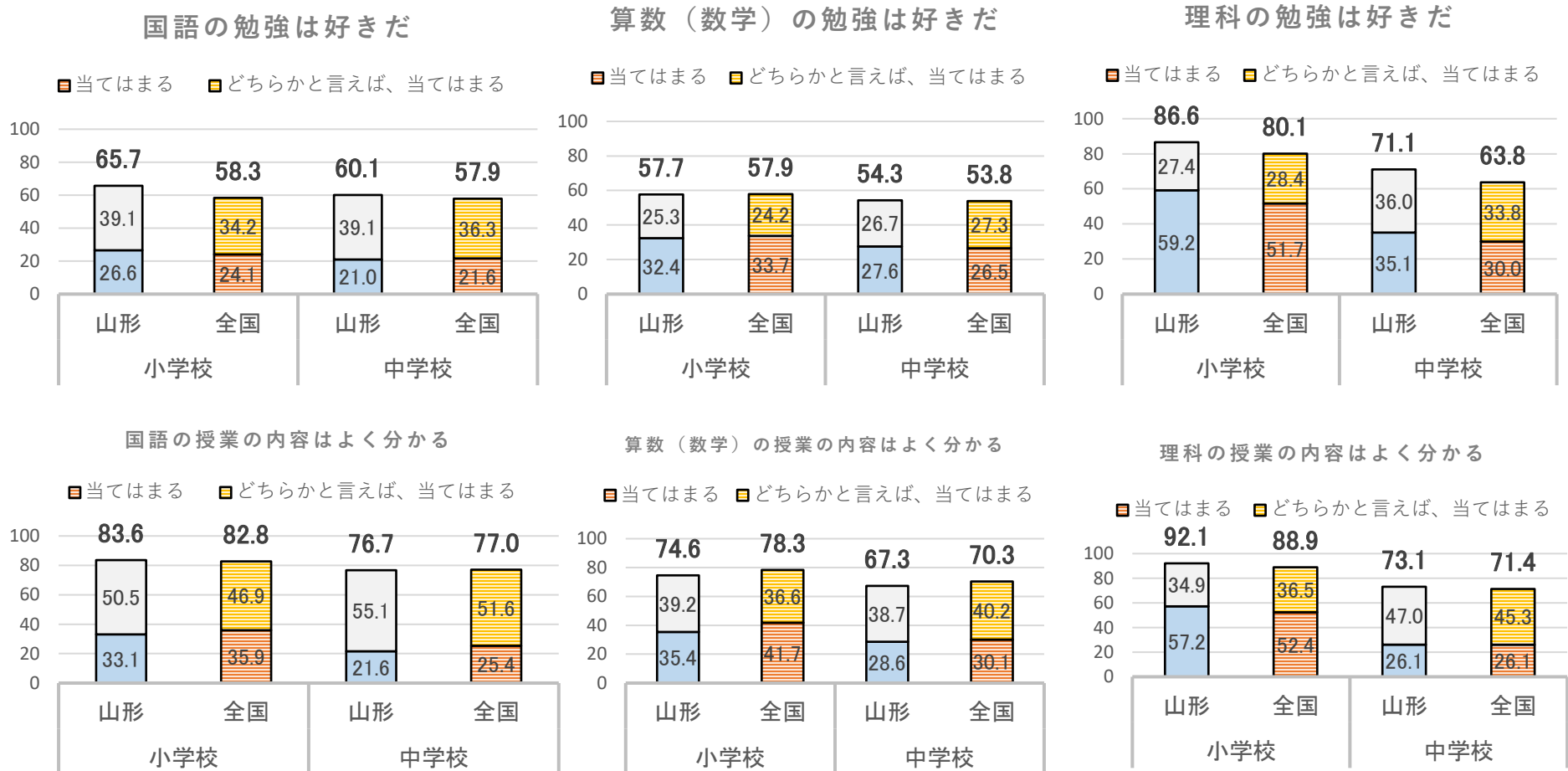
	H31	R3	R4	R5	R6	R7
国語	-0.3 ~ 0.6	0.9 ~ 1.8	0.5 ~ 1.4	-0.3 ~ 0.6	-0.6 ~ 0.3	-0.8 ~ 0.1
数学	-2.3 ~ -1.4	-1.7 ~ -0.8	0.1 ~ 1.0	-1.5 ~ -0.6	-2.0 ~ -1.1	-3.8 ~ -2.9
理科			0.2 ~ 1.1			1
英語	-3.5 ~ -2.6			-5.1 ~ -4.2		

(資料) R7. 全国学力・学習状況調査 (学力調査) 文部科学省

Ⅲ 社会を生き抜く基盤となる確かな学力を育成する

【学習状況調査（児童生徒）の結果】

- 勉強が「好き」との回答は、小・中学校国語、理科、及び中学校数学において全国の割合を上回った。
- 授業が「よく分かる」との回答は、小学校国語、小・中学校理科において全国の割合を上回った。



（資料）R7. 全国学力・学習状況調査（学力調査）文部科学省

〈KPI〉 ※ 小学校・中学校 の合計

⑪国語、算数・数学、英語の勉強が「好き」な児童生徒の割合が全国平均以上の 科目数 (R7. 4)

○概ね達成 (目標値) 全科目 (実績値) 6 科目中 5 科目

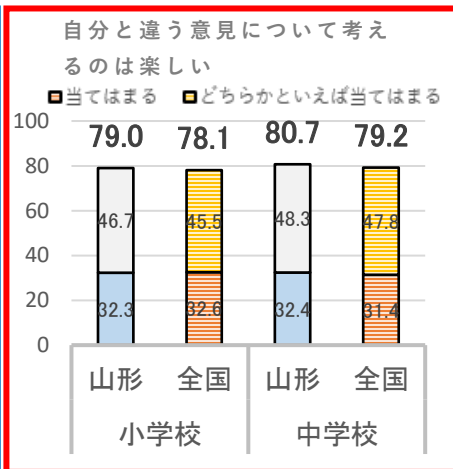
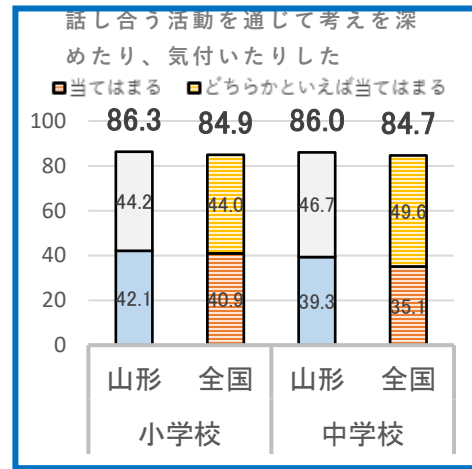
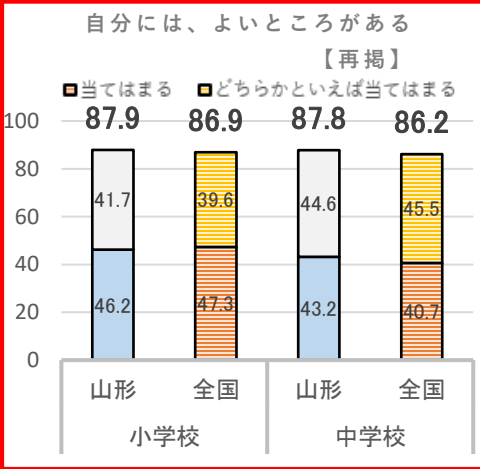
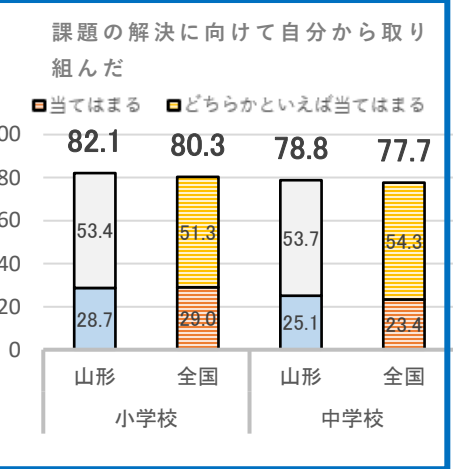
⑫国語、算数・数学、英語の授業の内容が「分かる」と答えた児童生徒の割合が全国平均以上の科目数 (R7. 4)

× 未達成 (目標値) 全科目 (実績値) 6 科目中 3 科目

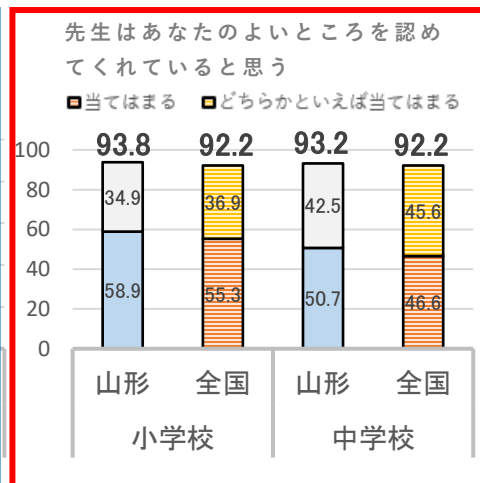
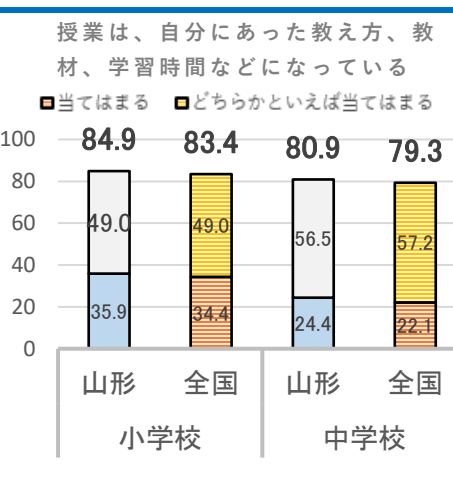
Ⅲ 社会を生き抜く基盤となる確かな学力を育成する

- ◆ 参考 (R7「全国学力・学習状況調査の結果(概要)」『主体的・対話的で深い学び』×ウェルビーイング) 文部科学省
- 児童生徒の主体的・対話的で深い学びに関する回答と児童生徒のウェルビーイングに関する回答との相関から、児童生徒の主体的・対話的な学びがウェルビーイングに影響を与えている可能性。
- 小・中学校とともに関連するすべての項目で全国平均を上回った。※ 青枠…主体的・対話的な学び 赤枠…ウェルビーイング

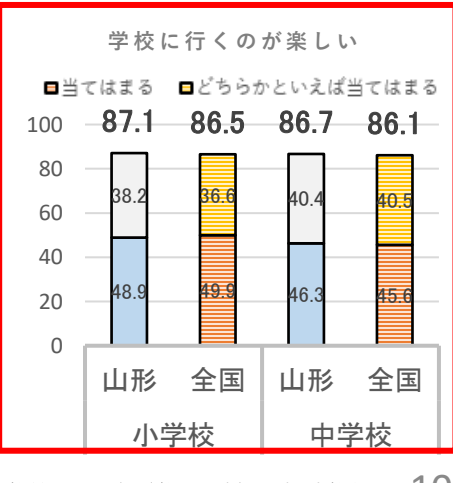
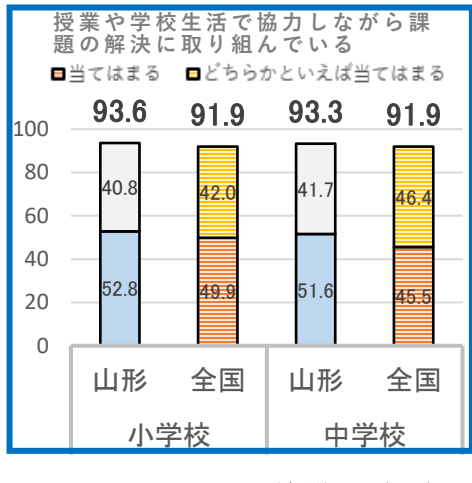
課題の解決に向けて自分から取り組んだ×「自分にはよいところがあると思う」 話し合いで考えを深めたり新たな考えに気づいたりした×「自分と違う意見について考えるのは楽しい」



個別最適な学び×「先生がよいところ認めてくれている」



協働的な学び×「学校に行くのは楽しい」

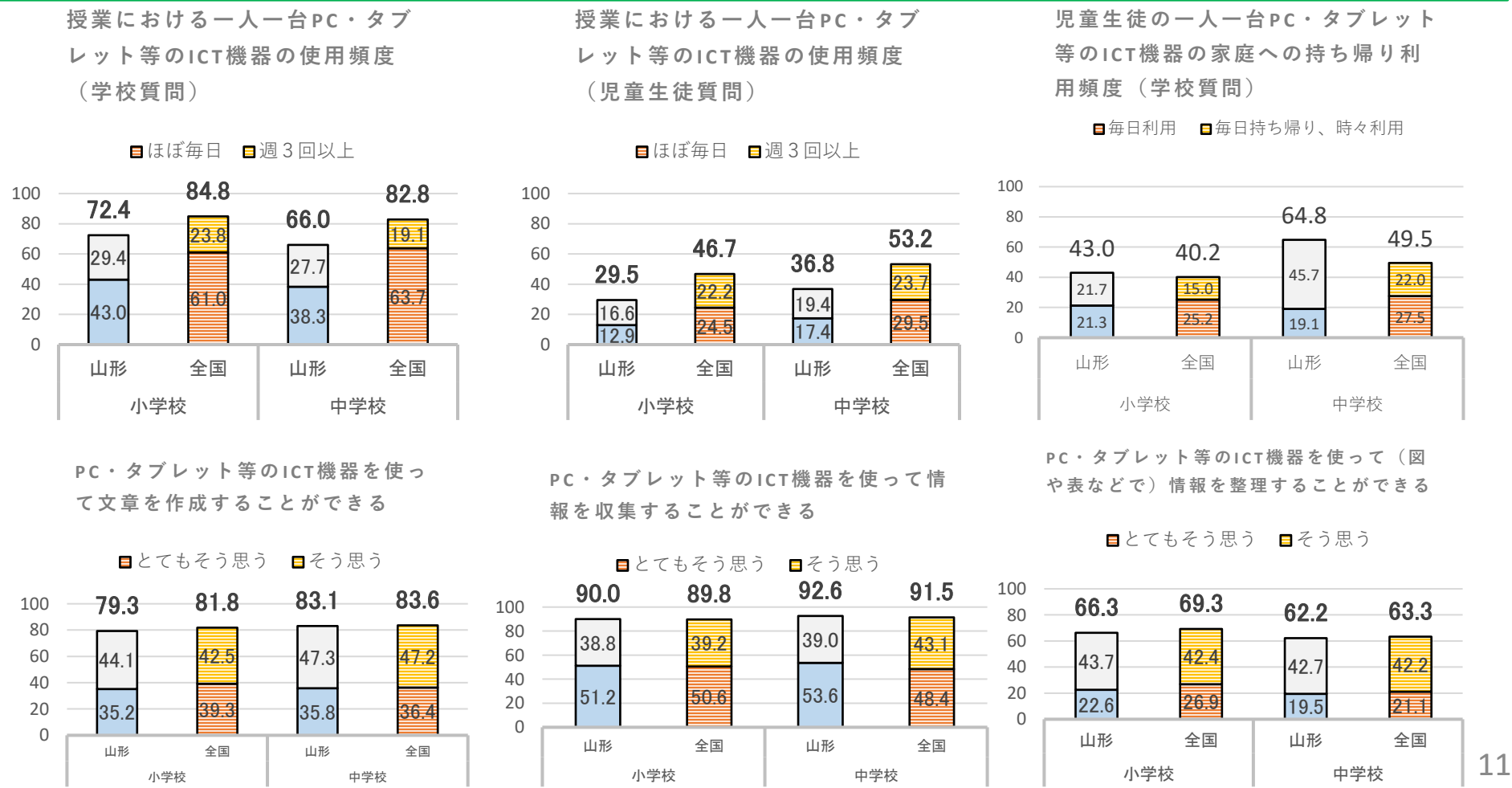


Ⅲ 社会を生き抜く基盤となる確かな学力を育成する

◆ 参考（R7「全国学力・学習状況調査の結果（概要）」ICTを活用した学習状況）文部科学省

● 児童生徒のICT機器を使用する頻度と各教科の正答率・スコアとの間に一定の関係が見られ、使用頻度が高いほど、正答率・スコアが高くなる傾向。

- 家庭への持ち帰りの利用の割合は、全国平均より高いものの授業における使用頻度が低い。
- ICT機器を使用した情報収集の割合は、全国平均より高く、文章の作成、情報の整理の割合が低い。



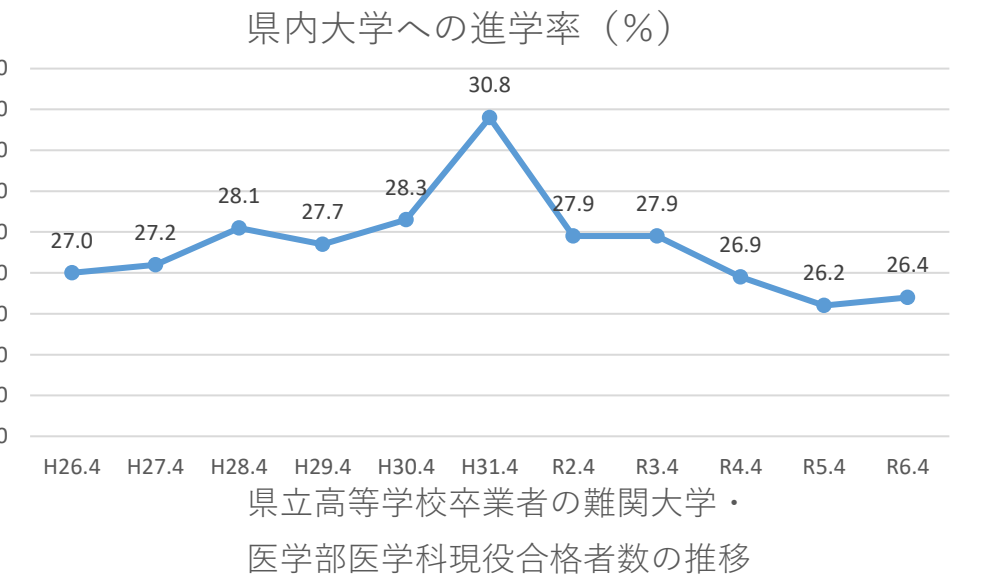
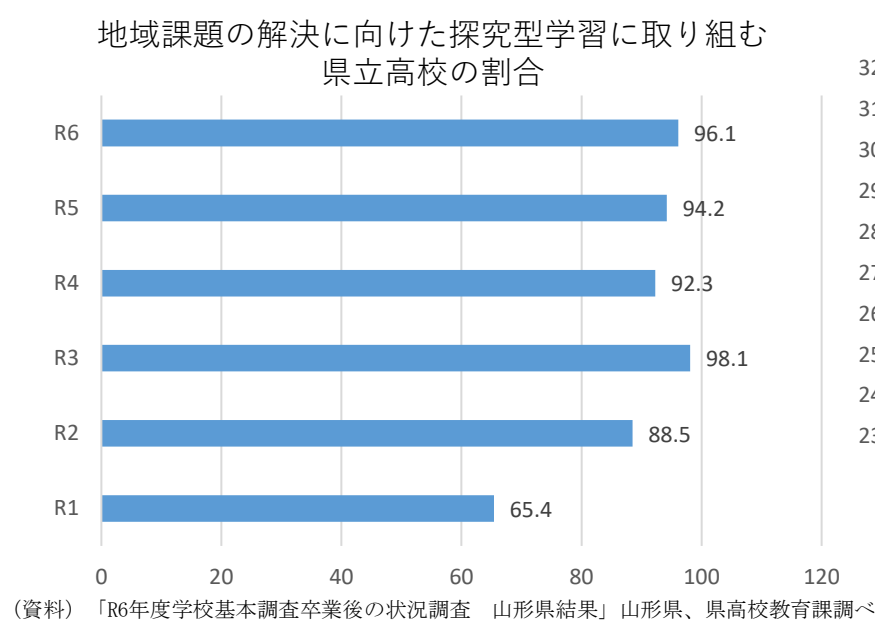
（資料）R7. 全国学力・学習状況調査（学力調査）文部科学省

Ⅲ 社会を生き抜く基盤となる確かな学力を育成する

- 産業界との協働等により全高校での探究学習、SSH※校の指定や高大連携等により理数教育を充実。
- 地元大学進学促進セミナーや地元大学キャンパスツアー、オンライン難関大学講座等を展開。

※ SSH（スーパーサイエンスハイスクール）；理数系教育に関する研究開発を行う高等学校を指定する文科省の事業（東桜学館、興譲館、鶴岡南、酒田東）

- 地域課題の解決に向けた探究学習に取り組む県立高校の割合はR6年度96.1%とR1年度の65.4%を大幅超。
- 県内大学等への進学者の割合や難関大学の合格者数は昨年度と同程度であり、医学部医学科の合格者数が増加。



〈KPI〉

⑨地域課題の解決に向けた探究型学習に取り組む県立高校の割合
◎ 達成 (目標値) 80.0% (実績値) 96.1% (R6)

⑭県内大学等への県内進学者の割合
✕ 未達成 (目標値) 33.0% (実績値) 26.4% (R6.4)

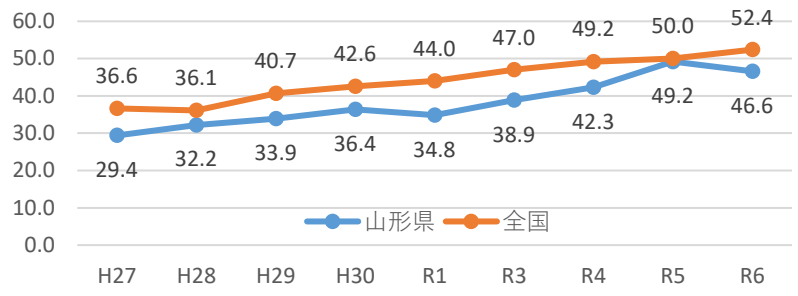
⑮医学部医学科・難関大学合格者の割合
◎ 達成 (目標値) 5.0%以上 (実績値) 7.8% (R6)

※難関大学；東京、京都、一橋、東京工業、東北

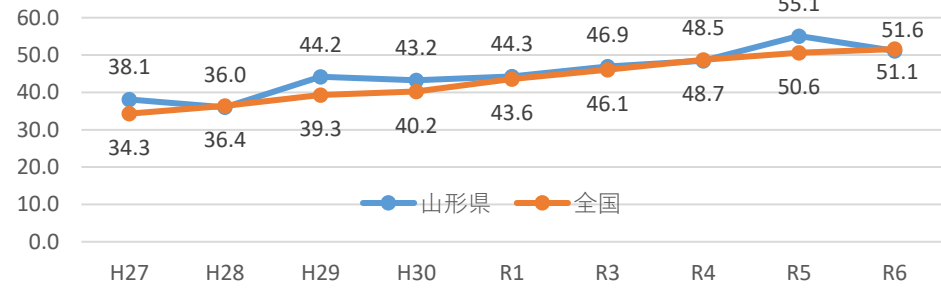
Ⅳ 変化に対応し、社会で自立できる力を育成する

- 英語ディベート大会への参加や高校生の海外留学を通じた国際交流を支援する事業等により、語学力をはじめとするグローバル化に対応する実践力を育成。
- 英語力については、CEFR A 1 レベル相当の中学生の割合が減少したものの、B 2 レベルの中学校英語担当教員は増加し、全国の割合との差が縮まった。A 2 以上の高校生及びB 2 以上の高校英語担当教員は全国と同程度。

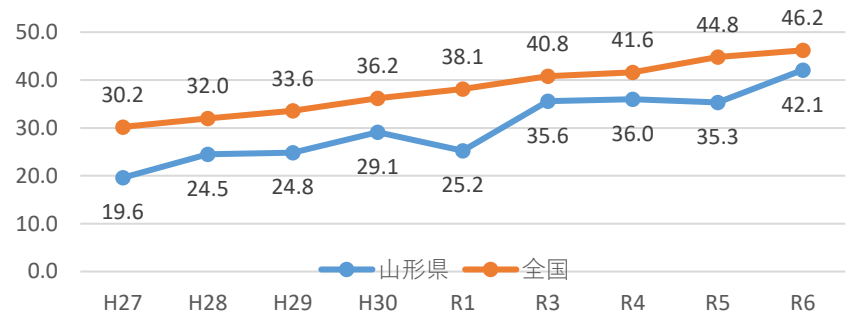
CEFR A1以上の中学3年生（％）



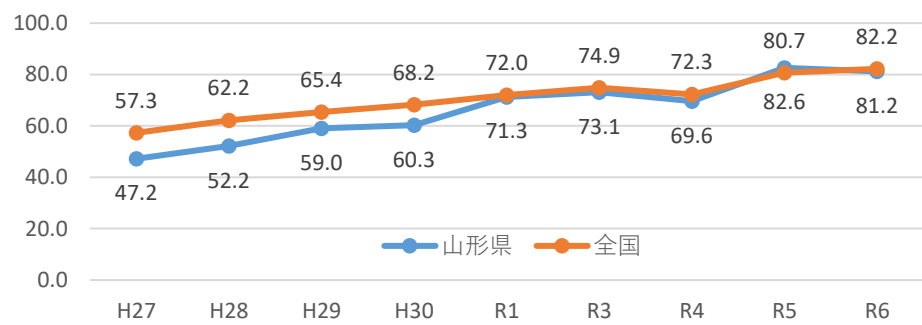
CEFR A2以上の高校3年生（％）



CEFR B2以上の中学校教員（％）



CEFR B2以上の高校教員（％）



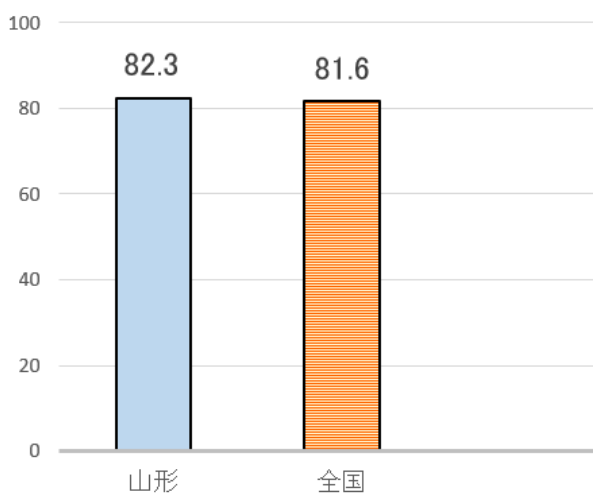
（資料）R6「英語教育実施調教調査」（文部科学省）

〈KPI〉			
⑯	CEFR A 1 レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる中学生の割合	○ 概ね達成	（目標値）50.0% （実績値）46.6% （R6）
⑰	CEFR A 2 レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる高校生の割合	◎ 達成	（目標値）50.0% （実績値）51.1% （R6）
⑱	CEFR B 2 レベル相当の英語力のある英語担当教員の割合	○ 概ね達成	（目標値）中：50.0% 高：85.0% （実績値）中：42.1% 高：81.2% （R6）

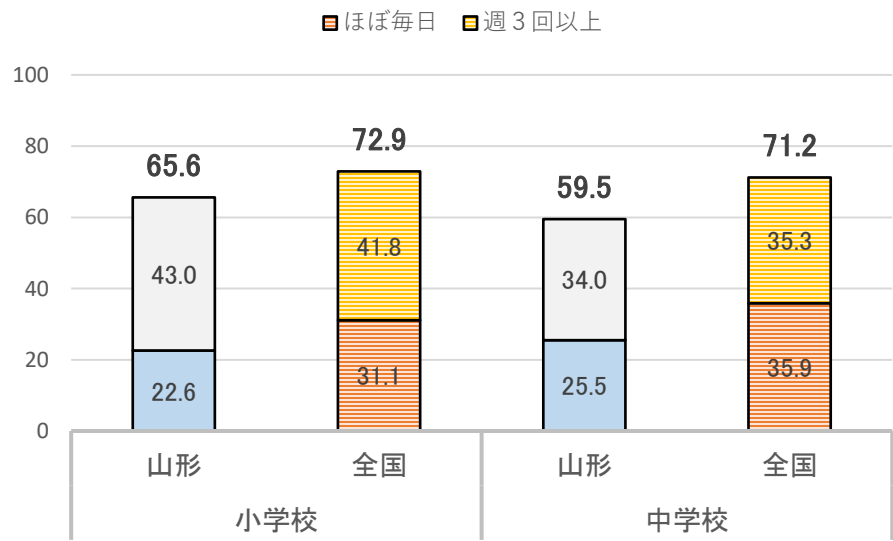
IV 変化に対応し、社会で自立できる力を育成する

- 外部講師や校内ICT推進担当による研修の実施、山形県ICT教育推進拠点校や山形県ICT教育推進委員による実践事例の普及等、教員のICT活用指導力の育成を推進。
- 教育情報ネットワーク等の運用や、学習者・教員用端末の整備等、学校におけるICT環境の整備を推進。
- 児童生徒のICT活用を指導することができる教員の割合は増加し、全国と同程度である一方、授業でのICT機器の利用頻度は全国と比して低い。
- 令和5年度に県立高校で無線LANの整備は完了し、全ての普通教室でインターネットを利用した授業を実施できる環境が整った。

児童生徒のICT活用を指導できる
教員の割合



調べる場面でのICT機器使用程度【再掲】



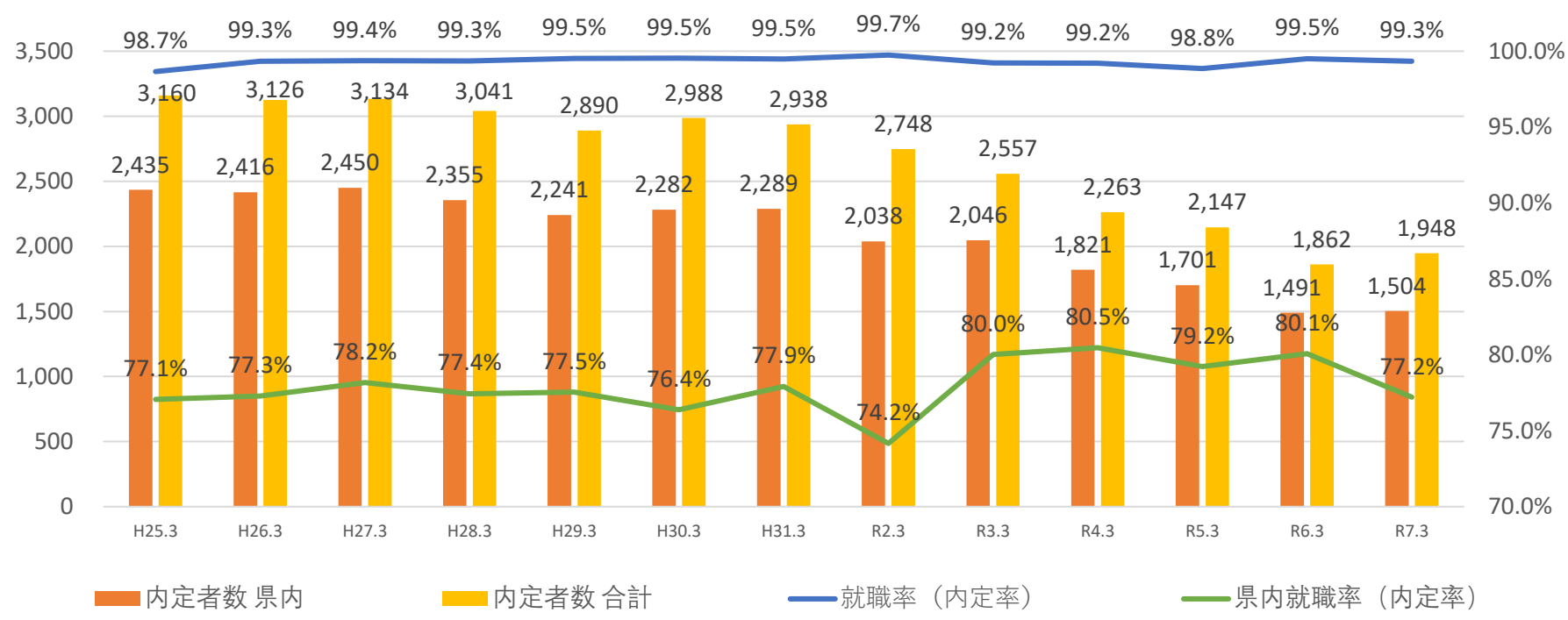
(資料) R6「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」、R7「全国学力・学習状況調査」(ともに文部科学省)

- 〈KPI〉
- ⑳児童生徒のICT活用を指導することができる教員の割合
◎ 達成 (目標値) 75.0% (実績値) 82.3% (R6.3)
 - ㉑学校におけるICT環境の整備(県立高校における無線LAN整備率)
◎ 達成 (目標値) 80% (実績値) 100% (R6.3)

Ⅳ 変化に対応し、社会で自立できる力を育成する

- 「キャリアパスポート」の活用により、小中高を通したキャリア教育を推進。
- 中・長期を含むインターンシップ（短期2,893名、中長期52名）や、外部人材の講演、ゼミ、研修等を展開。（トップセミナー；全県立高校で実施、キャリアサポート事業；社会人講師43名、受講生徒数1,793名）
- 高校生の全就職内定者数に占める県内就職内定者数は8割程度、就職を希望している高校生の就職率はほぼ100%近傍。発達障害等特別な支援の必要な生徒への対応を個別に行う必要。

高等学校卒業予定者の就職内定状況



〈KPI〉			
②③高校生の県内就職率	○ 概ね達成	(目標値) 80.0%以上	(実績値) 77.2% (R6)
②④就職を希望している高校生の就職率	○ 概ね達成	(目標値) 100%	(実績値) 99.3% (R6)

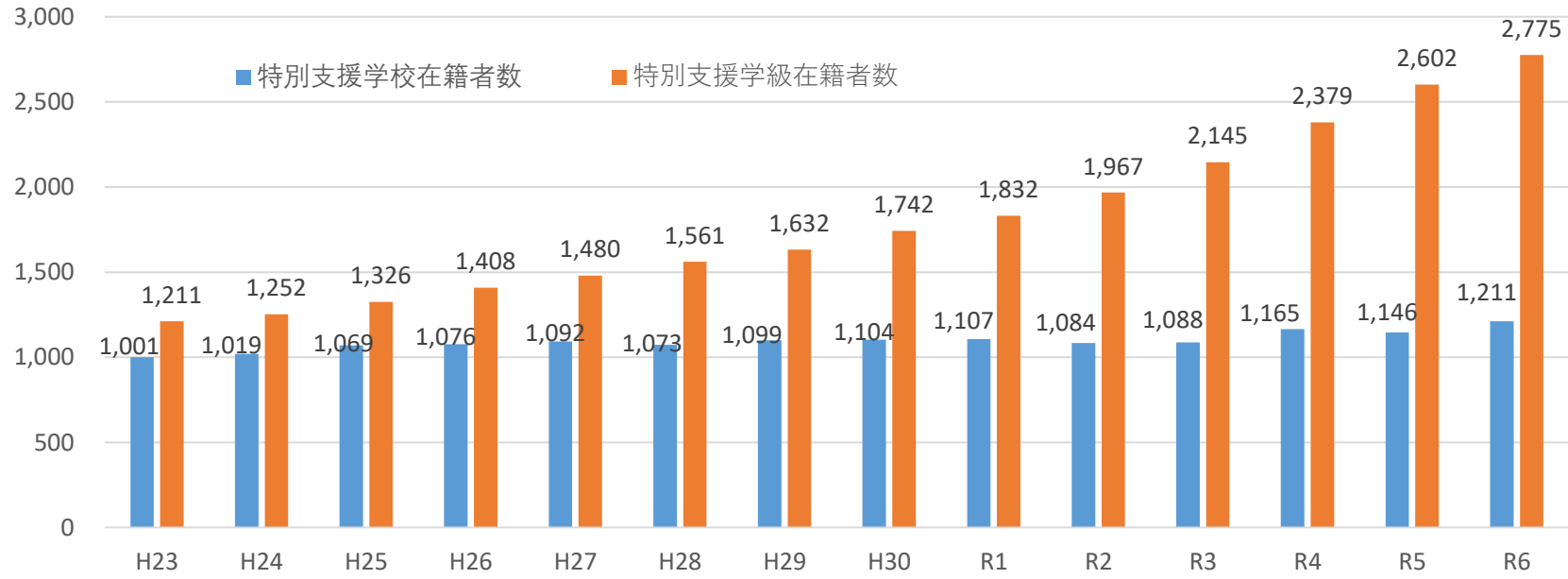
(資料) 県教育局、総務部調べ

V 特別なニーズに対応した教育を推進する

- 管理職等への働き掛けによる免許認定研修受講の促進。
 - 就学前から社会参加までの切れ目ない支援に向け、引継ツールとしての「個別の指導計画」について、連携協議会や各種研修会等において重要性を周知し作成を促進。
 - 県内4地区に「就労支援コーディネーター」を配置し、実習や就職先としての民間企業を開拓。
- 障がいのある幼児児童生徒等に対する「個別の指導計画」の作成率（通級による指導、通常の学級）については、概ね達成。

〈KPI〉
②⑥障がいのある幼児児童生徒に対する「個別の指導計画」の作成率（小・中・高の通級による指導、通常の学級）
○ 概ね達成（目標値）通級：100% 通常：100%
（実績値）通級：97.6% 通常：98.0%（R6）
（県独自調査）

（参考）県立特別支援学校及び県内特別支援学級在籍者数の推移



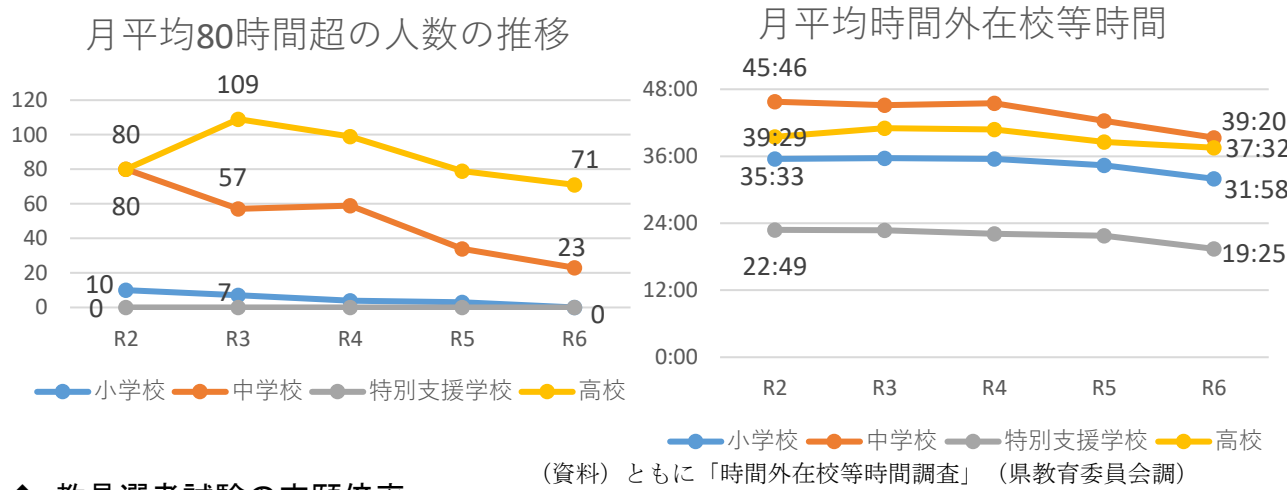
（資料）R5「特別支援学校教員の特別支援学校教諭等免許保有状況等調査」（文部科学省）

（資料）R6県独自調査

VI 魅力にあふれ、安心・元気な学校づくりを推進する

- 「山形県公立学校における働き方改革プラン」「山形県における部活動改革のガイドライン」等に基づく教職員の働き方改革の推進やメンタルヘルス対策の推進。
- 教員選考試験における大学推薦・元職正規職員等を対象とした「特別選考」区分による採用や、大卒新採教員等への育成支援等による優秀な教員の確保・育成。
- 令和6年度における時間外在校等時間が月平均80時間を超える教員数は、全校種で、取組前の令和元年度の975名から90.4%減少し94名であったが、目標の0人は未達成。
- 近年の教員選考試験における志願倍率（志願者数/募集人数）は、小学校が平成25年採用では5.2倍だったものが令和7年度採用では1.5倍、中学校は同じく9.5倍が2.9倍、高等学校は13.3倍が4.7倍と大幅に低下。

◆ 時間外在校等時間（≡教員における時間外勤務時間相当）調査



〈KPI〉

⑦半期ごとの月平均の超過勤務時間が80時間を超える教員数
× 未達成
(目標値) 0人
(実績値) 小: 0人 中: 23人 特: 0人 高: 71人

⑧健康診断時における要精密検査該当者の精密検査受診率(教職員)
× 未達成
(目標値) 100.0%
(実績値) 91.1% (R6)

⑨学校管理下における事故災害で負傷する児童生徒の割合
◎達成
(目標値) 8.0%未満
(実績値) 7.6% (R6)

◆ 教員選考試験の志願倍率

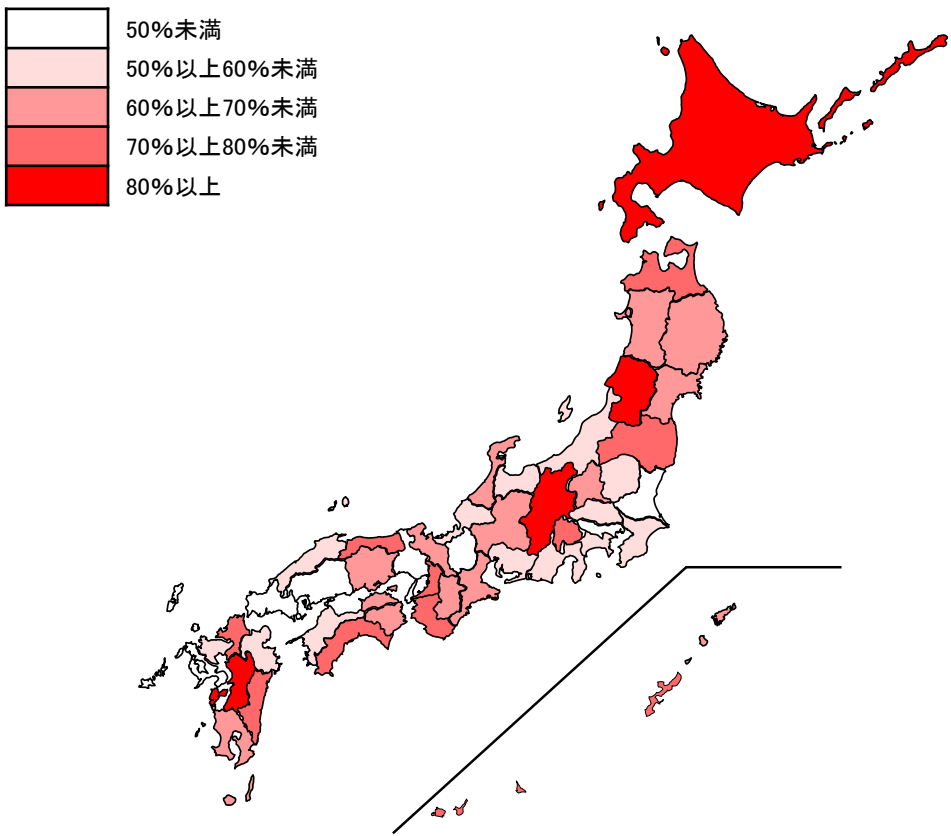
	H25年度採用	H30年度採用	R6年度採用	R7年度採用
小学校	5.2倍 (411/ 80人)	2.6倍 (362/140人)	1.3倍 (236/185人)	1.5倍 (273/180人)
中学校	9.5倍 (475/ 50人)	5.2倍 (338/ 65人)	2.7倍 (229/ 85人)	2.9倍 (245/85人)
特別支援学校	3.2倍 (81/ 25人)	3.6倍 (72/ 20人)	1.6倍 (40/ 25人)	1.1倍 (34/30人)
高等学校	13.3倍 (333/ 25人)	8.8倍 (265/ 30人)	5.5倍 (194/ 35人)	4.7倍 (165/35人)
計	7.2倍 (1,300/180人)	4.1倍 (1,037/255人)	2.1倍 (699/330人)	2.2倍 (717/330人)

VI 魅力にあふれ、安心・元気な学校づくりを推進する

- 県立高等学校や特別支援学校の計画的な修繕・整備、小規模高校におけるキャンパス制の導入や県立高校と地元中学校との連携活動プロジェクト等、県立高校の魅力化・活性化の推進。

- 【高等学校の小規模化】
- 本県の市町村のうち、公立高等学校の立地が0ないし1であるものは28（80.0％）。（全国63.9％）
北海道の83.8％、福島県の81.4％、長野県80.5％に次いで割合が高い。
 - 中学校卒業生数は減少する見込み。小規模校では科目の選択肢に限られる等、教育環境に制限。

公立高等学校の配置（公立高等学校の立地が0ないし1である市区町村）



1 中学校卒業生数の推移（R10以降は推計）【山形県】



3 学校規模による教育環境の比較（普通科の8

	小規模高校	中規模高校
クラス数/学年	1クラス	5クラス
教諭数	8人	42人
科目数	36科目	57科目

(地理歴史の例) ○選択可 ×選択不可

	小規模高校 (1クラス)	中規模高校 (5クラス)
世界史A	○	○
世界史B	×	○
日本史A	○	○
日本史B	×	○
地理A	○	○
地理B	×	○

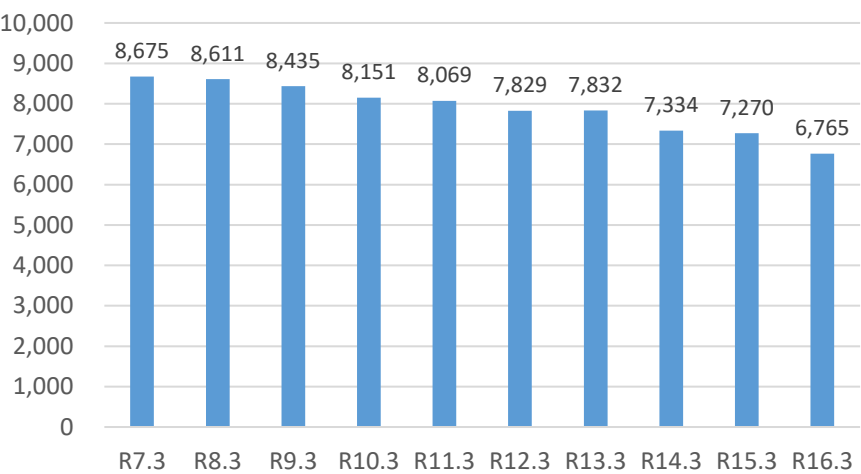
(資料) 「小規模高等学校の特色化・魅力化について (R6)」、「学校基本調査 (R6)」（文部科学省）、「令和6年度政府の施策等に対する提案」（山形県）

VI 魅力にあふれ、安心・元気な学校づくりを推進する

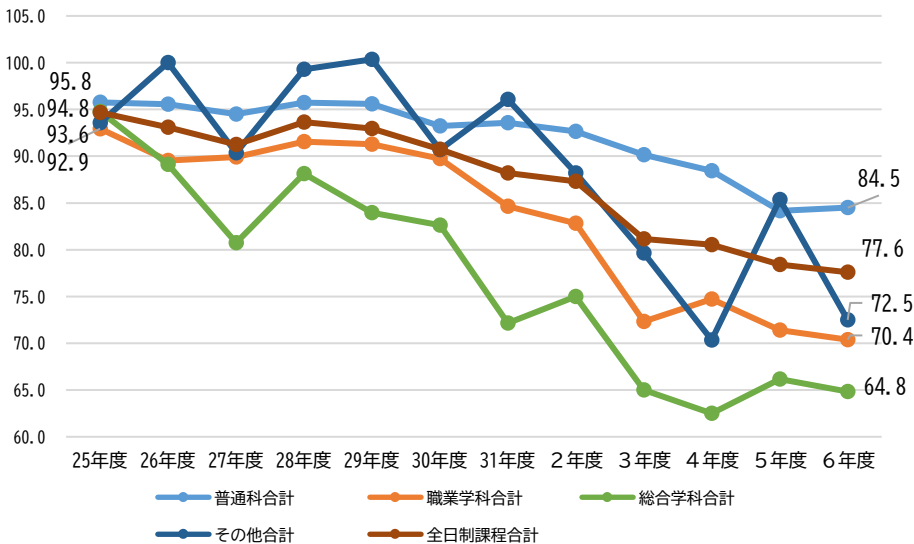
【高等学校入学者の推移】

● 人口減少に伴い中学校卒業生が減少傾向にあり、県立高等学校の入学者の定員に対する充足率も低下傾向。

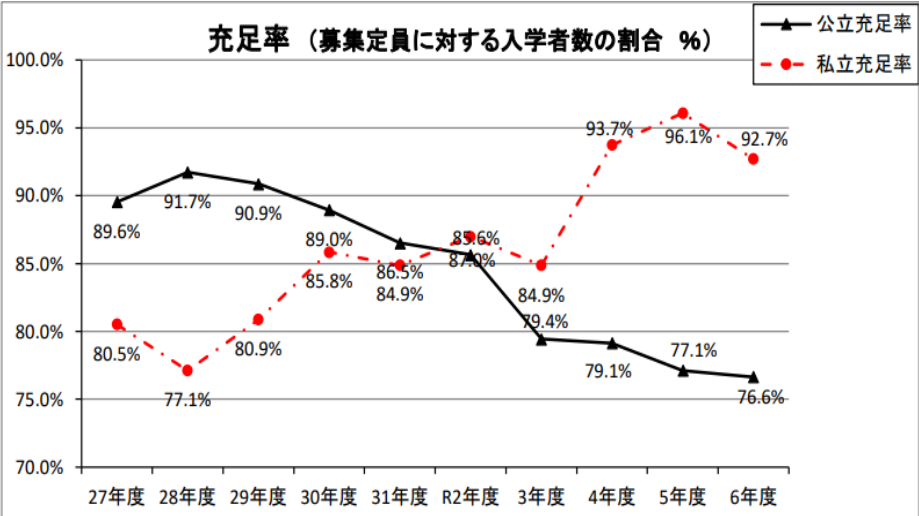
中学校卒業生数の見込み（山形県）



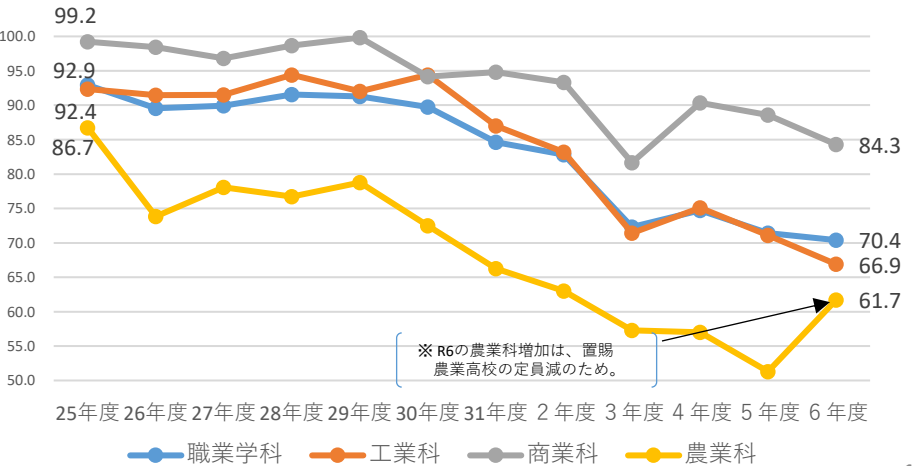
公立高等学校（全日制）学科別充足率（％）の推移



公立高校・私立高校充足率



職業学科の学科別充足率の推移



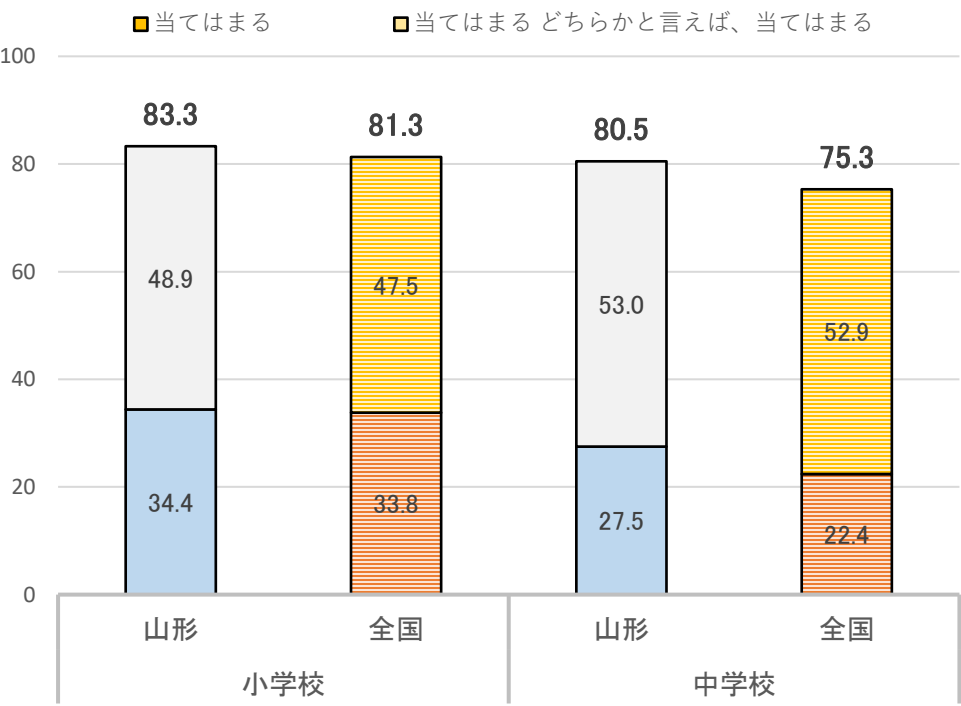
※ R6の農業科増加は、置賜農業高校の定員減のため。

（資料）いずれも県教育委員会調べ

VII 郷土に誇りを持ち、地域社会の担い手となる心を育成する

- 「郷土Yamagataふるさと探究の広場」により、地域学習の成果を収集・発信し、児童生徒の探究的な学びの推進とともに、郷土愛を醸成。
 - 「ふるさと塾出前講座」の展開や「未来に伝える山形の宝」の登録推進等により、地域の文化財や伝統文化の総合的な保存活用・継承の取組みを促進。
- 総合的な学習の時間等を活用して、地域や社会への理解、問題意識の醸成を図る機会の創出により、地域や社会をよくしたいと思う児童生徒の割合は、全国と比して高い。
 - 「ふるさと塾」の活動へ参加する団体数が多いこと等、地域文化について学ぶ取組みや保存についての取組みは一定程度進捗している。

地域や社会をよくするために何かしてみたい

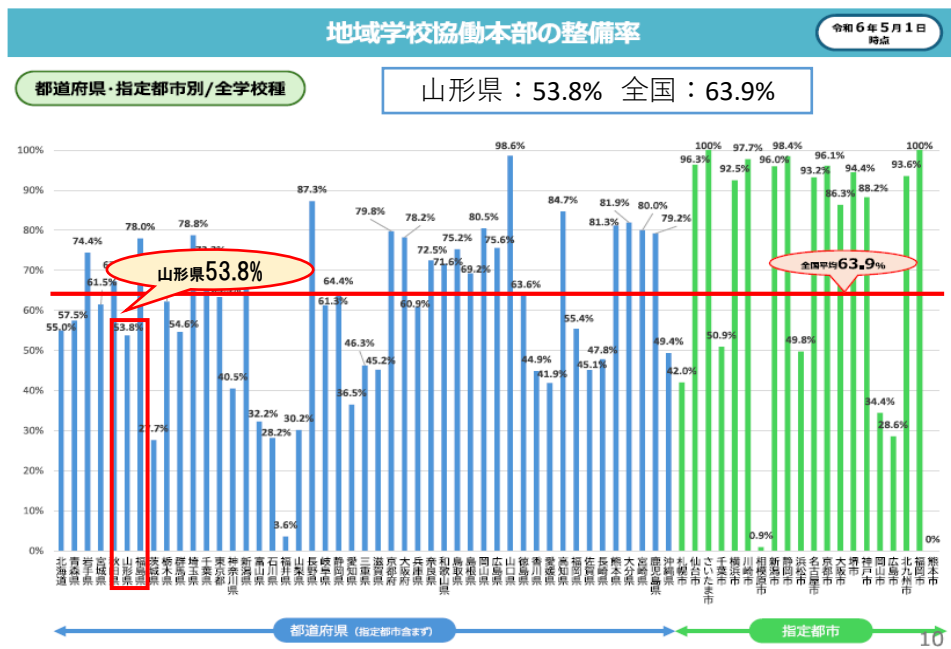
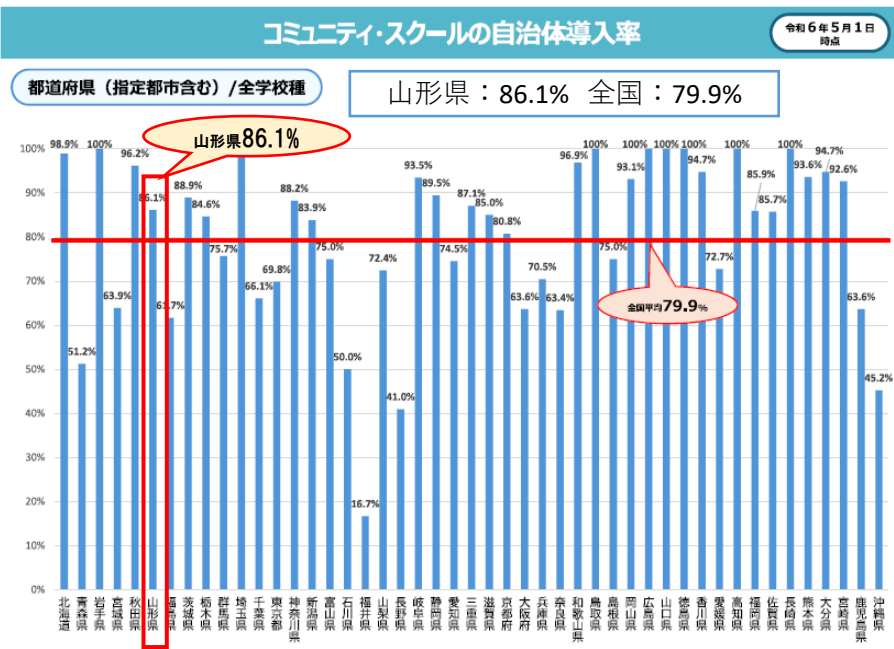


- 〈KPI〉
- ③①地域や社会をよくするために何をすべきか考える児童生徒の割合
◎達成
(目標値) 小 : 70.0%、中 : 55.0%
(実績値) 小6 : 83.3%、中3 : 80.5% (R7.4)
 - ③②「ふるさと塾」の活動に賛同して伝承活動をする団体数
◎達成
(目標値) 310団体
(実績値) 315団体 (R6)
 - ③③「未来に伝える山形の宝」登録制度による登録市町村数
×未達成
(目標値) 全市町村
(実績値) 26市町村 (R6)

(資料) R7. 全国学力・学習状況調査 (児童生徒質問)

VII 活力あるコミュニティ形成に向け、地域の教育力を高める

- コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的な取組み等、「学校を核とした地域づくり」を推進。
 - 青少年ボランティア活動や地域活動に取り組む青少年リーダー等、青少年の地域力を育成。
 - 知の拠点としての県立図書館をはじめとする社会教育施設等、地域の教育力を高める生涯学習環境を充実。
- コミュニティ・スクールの設置率は全国平均上回るが、地域学校協働本部の設置率は全国平均より低い。
 - 公民館等で開催されている各種事業・講座等への参加人数も猛暑やコロナ禍時の統合の影響もあり減少。



R6. コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査（文部科学省）

〈KPI〉			
③④地域学校協働本部の仕組みを生かし、地域住民等との協働による活動が行われている公立小中学校の割合	◎達成	（目標値） 70.0%	（実績値） 70.1%（R6）
③⑤高校生のうち、ボランティア活動に参加した生徒の割合	✕未達成	（目標値） 100.0%	（実績値） 74.7%（R6）
③⑥地域活動に取り組む青年グループ数	○概ね達成	（目標値） 全市町村82団体	（実績値） 24市町村85団体（R6）
③⑦公民館等で開催されている各種事業・講座等への参加人数	✕未達成	（目標値） 547,700人	（実績値） 419,563人（R6）

IX 地域に活力を与える文化とスポーツを推進する

- 県民誰もが、生涯を通じて、文化を鑑賞し、参加し、創造することで、喜びや感動、心の安らぎを享受できるよう県立文化施設の活用等、県民が文化に親しむ環境づくり及び文化を活用した地域活性化を促進。
- 県立文化施設等への来館者数は、コロナ禍が明けてから各文化施設がイベントや公園・展示会等を安定して開催できるようになり、外国人観光客の増加もともなって目標値（100万人）を超え、増加傾向。
- 日本遺産を活用した体験・学習等をとおし、地域の文化財に対する県民の関心を高めることによる、郷土への愛着・誇り・継承についての機運の醸成
- 「やまがた伝統文化フェスタ」において、「ふるさと伝統の集い」を開催し、民俗芸能団体のネットワーク化を促進。
- 学校における文化芸術活動の推進として、県内の文化芸術団体等との連携による、文化芸術鑑賞機会の提供。

● 県立文化施設等の来館者数

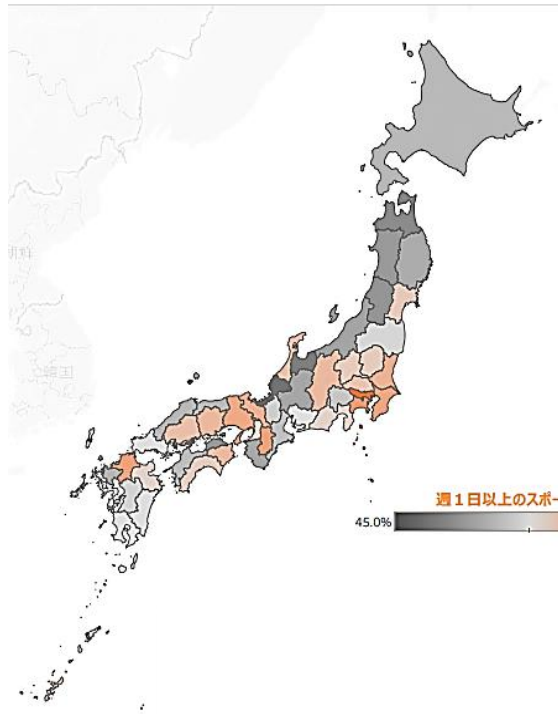
H29	⇒	R3	R4	R5	R6
870,200人		926,826人	1,122,781人	1,279,180人	1,282,922人

〈KPI〉
③⑧ 県立文化施設等の来館者数
◎ 達成
（目標値）100万人
（実績値）1,282,922人（R6）

IX 地域に活力を与える文化とスポーツを推進する

- 県民がスポーツに親しむ環境づくり及び「YAMAGATAドリームキッズ」等トップアスリート育成に向けた支援・強化策を推進
- 成人の週1回以上のスポーツ実施率は、前回調査（令和4年度）より1.7%増加。
- 競技スポーツは、インターハイの入賞数・国体順位が共に未達だったが、国体順位はR5年度の43位から33位に上昇。
- パリオリンピックに、本県にゆかりのある5名の選手が出場。（ボクシング男子、水球男子、レスリング女子、バレーボール男子、アーチェリー女子）

- ＜KPI＞
- ③⑨成人の週1回以上のスポーツ実施率
○ 概ね達成
（目標値）60.0%
（実績値）51.6%（R6）
 - ④⑩インターハイ入賞数
× 未達成
（目標値）夏季：40以上
冬季：15以上
（実績値）夏季：25
冬季：13（R6）
 - ④⑪国民体育大会天皇杯順位
× 未達成
（目標値）20位台
（実績値）33位（R6）
 - ④⑫オリンピックで活躍した選手
◎ 達成
（目標値）日本選手団選手の1% 以上
（実績値）1.22%（R6）



（参考）20歳以上男女の週1日以上のスポーツ実施率

山形県	46.9%
全 国	52.5%

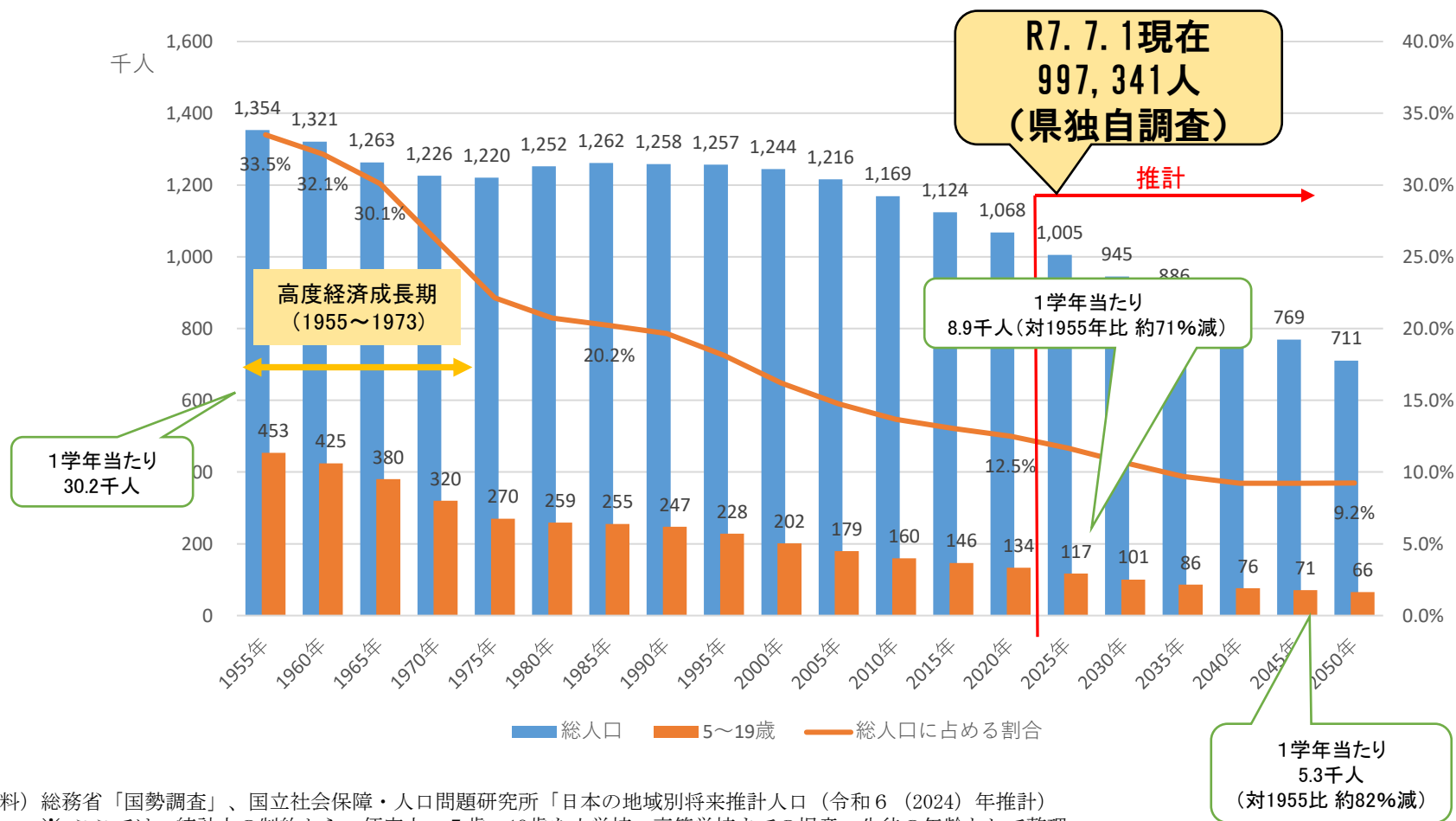
注）単年の調査結果では各都道府県における十分な標本が得られないため、3年分（令和4～6年度）を合算して算出している（20歳以上）。

注）各都道府県の結果は、性別選択項目「回答しない」も含まれているため、男性と女性の合計数が全体とは一致しない。

【参考】 人口減少の加速化（学齢期を中心に）

- 本県の児童・生徒の人口は、1955年（昭和30年、高度経済成長の始期にあたる）には45万3千人（1学年あたり※3万人）だったが、2050年（令和32年）には6万6千人（1学年あたり約4.4千人、対1955比 85%の減）となる見込み。
- 実際は、推計よりも早いスピードで人口減少が進んでおり、2024年の児童・生徒数は（令和6年）は9万8千人（学校基本調査より：1学年当たり約6.5千人、対1955年比 80%減）。2025年の総人口は100万人を割り込んだ。

山形県人口の推移（総数、児童・生徒5～19歳）

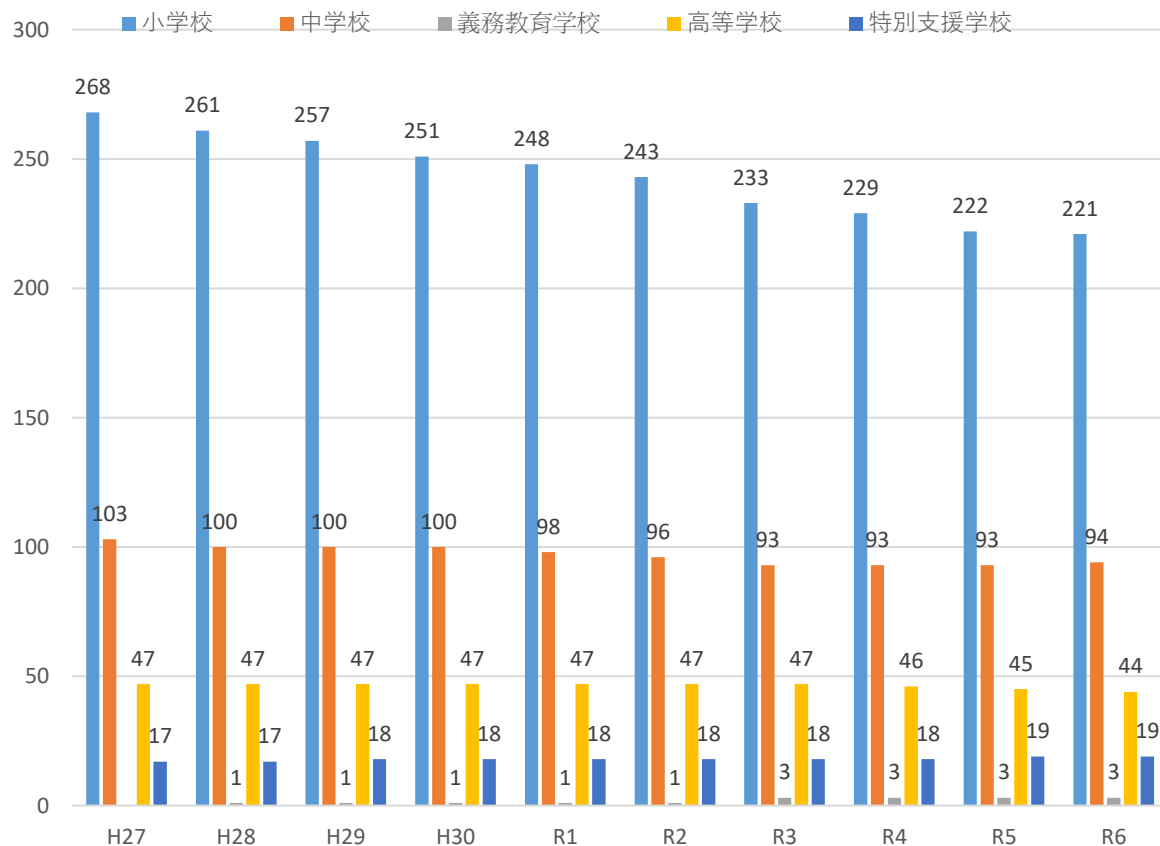


（資料）総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和6（2024）年推計）
※ ここでは、統計上の制約から、便宜上、5歳～19歳を小学校～高等学校までの児童・生徒の年齢として整理

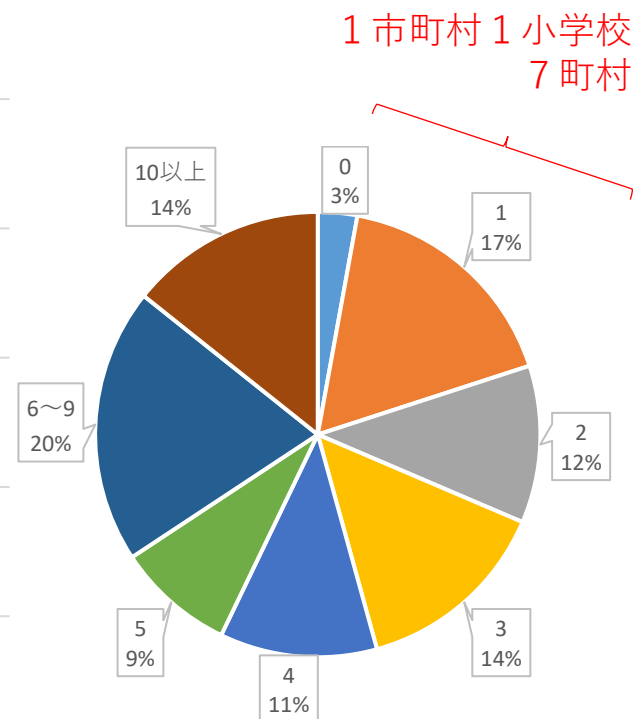
【参考】 学校数の減少

- 本県の学校数は小学校、中学校、高等学校では減少傾向。市町村の小学校数は6割以上が5校以下で、1市町村1小学校は7町村。（戸沢村（義務教育学校）含む）
- 今後も統廃合や義務教育学校への移行が進む見込み。

山形県内の学校数の推移



各市町村の小学校数（R6）



1 趣 旨

- 7教振は、県民一人ひとりが自分事として取り組む方向性の下、「県民の皆様へ（メッセージ）」や「県民みんなでチャレンジ」を提示していることから、県民に直接伝わる周知・広報を行うもの

2 概 要

（1）県民参加型のPR活動

県民一人ひとりが7教振を自分事とするための参加型の活動を展開

① ワークショップ「7トーク」

公募するほか、県内各学校、PTA・地域行事、研修等に合わせて開催

② シンポジウム「7フェス」

教育の日（11月第2土曜）に、パネルトーク＋ワークショップを開催

（2）PR動画の作成

推進委員会委員自らの言葉で7教振を伝える動画や、子どもたちが体験等を行う様子、7トークの動画を作成し、Youtube「7チャンネル（仮）」で公開

（3）PR資料の作成

「手に取ってもらう」ことを主眼に、推進委員会の委員からの協力を得ながら、県民向けポスター・リーフレットを作成（計画冊子・概要版、大綱はデータ）

ワークショップ「7トーク」の様子



各種会議等における7教振の説明【一覧】 (R7.9.1現在)

総数（予定含む） 80回（うち実施済 48回） 《うちWS55回（実施済25回）》
 [内訳]

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| ① 教職員に対して直接説明するもの | (32回、実施済13回) 《WS25、済8》 |
| ② 校長・教頭会で説明するもの | (24回、実施済20回) 《WS15、済11》 |
| ③ 市町村教委（指導主事）等に対して説明するもの | (8回、実施済7回) 《WS 4、済3》 |
| ④ 社会教育関係の会議等を活用して説明するもの | (16回、実施済8回) 《WS11、済3》 |

(凡例：実施：すでに実施済、WS：ワークショップ（7トーク）を行うもの)

【7トークのコメント一例】

- ・「7トーク」実施校に手をあげて、職員または児童、PTA でやってみたい！【校長先生】
- ・ お話を聞きながら、“チャレンジ（挑戦）”することの大切さを改めて感じたところです。“挑戦しやり抜く”気持ちで教育活動を仕組んでいます。【教頭先生】
- ・ チャレンジするためにチャレンジするのではなく、それ自体を「楽しむ」ことかなと思っています。【教職員】
- ・ チャレンジするには、少し勇気が必要だと思いますが、チャレンジし続けられるようにしていきたいです。【養護教諭】
- ・ 子供に対して向きあう（こうしてあげたいを考える）時間ができました。これからしてみようが見つかりました。【保護者】
- ・ 7トークを初めてやってすごく楽しかったし、色々な人にチャレンジしたいことが言えて良かったです。【中学生】